

ご案内

講演会・研究集会「木の文化を遺すーオモテの話、ウラの話ー」

このたび、奈良文化財研究所では、京都大学生存圏研究所と共同して講演会・研究集会を下記の通り開催することとなりました。今回の「研究集会」は2日間にわたり3部で構成されています。第一部は「東南アジア木製文化遺産保存ネットワーク会議」、第二部は「木の文化と科学講演会 XV」、そして第三部は「保存科学研究集会 2015 出土木製遺物の保存に関する最近の動向」です。

木質文化財の保存、いわば木の文化を守り伝えていくためには、様々な取り組みが必要です。建造物、仏像、出土木製遺物など、文化財の種類によってもその保存のコンセプトは異なります。私たちの目の前にある木質文化財は、ただ単にそこに建っている、あるいは置かれている（オモテの話）のではなく、その状態にするまでにあるいはその状態を保てるように、多くの陰ながらの努力がなされています（ウラの話）。今回の講演会・研究集会では全体を横断するテーマとして「木の文化を遺すーオモテの話、ウラの話ー」というタイトルをつけました。

東南アジアにはきわめて密度の高い木材をはじめ、その保存処理が困難な木製遺物が数多く出土しています。東南アジア諸国の皆さんと共同で保存処理技術の研究を進めていくことで、世界的にも通用する保存処理技術が開発されることが期待されます。奈良文化財研究所、京都大学およびベトナム林業大学の3者が共同して、東南アジアの木製文化遺産の保存のためのネットワークを構築し、この地域で大きな問題となっている木製文化遺産保存の課題に東南アジアの皆さんとともに解決していこうと取り組んでまいりました。この取り組みは平成25年度より3年間、文化庁の拠点交流事業の助成金を受けてネットワークの基盤作りをしてきたものです。その第一段階の締めくくり、そして第二段階の出発点として「東南アジア木製文化遺産保存ネットワーク会議」を開催することとしました。この会議では、東南アジアの国々から木製文化遺産の保存に取り組まれている方々をお招きし、現況を語っていただくとともに、今後の行動計画について議論をする予定にしています。日本からも木製文化遺産の保存を専門とされている方にぜひオブザーバーとしてご出席いただきたく計画しております。会場の都合で30名限定とさせていただきます。あしからず、ご了承ください。

第二部の「木の文化と科学講演会 XV」は先述した「木の文化」を守り伝えていくことの意義（オモテの話）、それを実現するために日々行われている保存の取り組み（ウラの話）を、一般の方々を対象としてわかりやすく、楽しい講演会としていきたいと思っています。もしかすると、ほんとに聞いてはいけないこわい裏話が飛び出すかもしれませんが・・・

第三部は、奈良文化財研究所で、毎年、保存科学の分野における様々な研究課題の中からひとつテーマを絞って開催している「保存科学研究集会」です。今年は「出土木製遺物の保存に関する最近の動向」をテーマに久しぶりに「木材」に焦点をあてて、皆様と情報共有と議論を深めたいと考えております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

記

2016年1月21日（木） 場所：京都大学 宇治キャンパス 木質ホール

9：00～12：00 第一部「東南アジア木製文化遺産保存ネットワーク会議」（事前申込制 先着30名）

13：30～17：00 第二部「木の文化と科学講演会 XV」

2016年1月22日（金） 場所：京都大学 宇治キャンパス 木質ホール

10：00～16：50 第三部「保存科学研究集会 2015 出土木製遺物の保存に関する最近の動向」